

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671100115
法人名	社会福祉法人 野の花会
事業所名	もうひとつの私の家 なでしこ
所在地	鹿児島県南さつま市加世田村原一丁目9-6 (電話) 0993-53-8885
自己評価作成日	平成28年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、厚生労働省のグループホームモデル事業として開設し、たとえ認知症になっても住み慣れた地域の中で安心して過ごされるよう、その人らしさやその人の生活史を大切に生活の継続性を尊重するための支援に努めてきました。できる限り自分のことは自分で、助け合って、生活されるよう心がけています。日々の暮らしの中で、外出などを楽しみ、季節の行事、行事食の調理などを通じて、また、買い物や地域の行事への参加を通じて地域の方々とつながり、力を発揮されています。そして、これらのことが意欲の向上や楽しみにつながるよう支援してきました。そのためにも、関わるスタッフは、資質の向上を目指し、お年寄りの力を引き出せるよう、心をこめ、尊厳をもって、お一人おひとりにどのようなケアが必要であるかを考え、そして最期までその人らしく過ごされるよう、また、在宅介護の認知症の人や家族を支えるため、私たちのケアの技術を地域に還元してゆけるよう努めなくてはならないと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は介護老人保健施設を中心として地域交流に積極的に取り組み、地域自治会と災害協定を結んでいる。事業所の夏祭りは自治会が準備・運営に積極的に関わり多くの住民参加を得て実施している。隣接の「ヒーリングガーデン」は利用者や住民も自由に利用しており、地域との交流の場として活用されている。
- ・事業所を運営する社会福祉法人は様々な老人福祉関連の事業を展開しており、系列の協力医療機関とは、定期的な往診及び緊急時の対応等協力関係が築かれている。
- ・拘束ゼロが法人の方針であり、事例や課題に基づいて定期的に勉強会を実施し、職員の共通認識を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。
- ・利用者のこれまでの生活や習慣を大事にしながら、できることは自分で行う等、家庭と同じような暮らしを続けられるように支援している。
- ・職員は勤務年数も長く離職者が少ない。管理者は職員育成にも力を入れて、資格取得に向けた支援を行っている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人が開設当初より地域の中で生活をさまざまなサービスで支援してきた。事業所としても理念の共有化のために年度毎にグループワークで定例勉強会や定例スタッフ会議などで、学び話し合う環境で、日々のケアに取り組んでいる。またお年寄りの尊厳を支え、理念を実践につなげている。	法人理念をもとに毎年テーマや重点項目を決めている。毎月の会議で進捗状況を確認しながら勉強会やユニット会議等で振り返り、理念に沿ったケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の暮らしの中でケアスタッフに限らず、ご本人も散歩・買い物・「小さな菜園」での仕事・地域の人々に解放されている「癒しの庭」での茶話会の途中で、挨拶や会話を交わしている。	自治会に加入し、地域の行事や清掃活動にも積極的に参加している。事業所の夏祭りは準備や出し物も自治会の協力を得たり、子どもたちや地域住民の参加がある。高校生の実習も受け入れている。地域に開放されている「癒しの庭」での住民との語らいやお茶を飲みながらの交流を日常的に行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人はこれまで、地域へ向けての講演会や介護予防教室・2級ヘルパー講習などを開催してきており 24年度より「認知症になっても安心して住める街、加世田」を目指し、「支援パス」の活用を行い、認知症の方とご家族、地域の方々への発信を続けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に運営推進会議を行っており活用されている。行政の方・ご本人・家族・地域の方の参加で活動報告を行なっている。又地域の自治会長も参加しており地域の行事の紹介もあり祭りには参加している。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況や取り組み・利用者の日々の活動・外部評価の報告などを行い、参加者からも地域行事の情報を得て、情報発信の機会となっている。提案で非常時の避難に毛布を活用する等、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>推進会議にも毎回参加し、市町村担当者からの情報提供も細くなされている。グループホームの運営面についても日常的なやりとりができています。</p>	<p>市担当者とは情報を交換して、運営上の相談はその都度行い、助言等を得ている。市担当者からメールで小まめに情報提供等がある。運営推進会議に参加してもらい協力関係もできている。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人の理念に深く関わっており大切に取り組んできたことである。新人スタッフにもまず初めに理解を求める研修を行い、法人一丸で取り組んできたノウハウの継続に努め、ケアに取り組んでいる。また勉強会も行っており、スタッフも理解が出来る。</p>	<p>拘束ゼロが法人の方針であり、事例や課題に基づいて定期的に勉強会を実施し、職員の共通認識を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。新人スタッフの研修も行っている。日中は玄関の施錠はせずに職員間の連携で安全な暮らしを支援している。地域の見守りもある。エレベーターも自由に使用し、職員の見回りや連携で入居前の生活を継続できるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人の母体である特別養護老人ホームで開設当初から基本として取り組んできた実績があり、管理者・スタッフは採用後必ず基本として学ぶ環境にある。マニュアルもあり、現任職員の間でも勉強会で確認している。身体的虐待が無いことは当然であるが日常の言葉使い、スタッフの行いの中にも敬意を持ってあたるようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>なでしこ入居の方で生年後見人を利用されている方があり、後見人の方とも連携しご本人を支えている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は管理者とケアスタッフで読み合わせながら説明を行い実際の暮らしの内容を十分に理解・納得していただけるように対応を心がけている。また解約に関しては今後の不安のないように法人内のソーシャルワーカーや居宅のケアマネージャーと連携して対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居時に重要事項説明書により苦情相談窓口の担当者がいることを書類・口頭でも説明している。入居者の気持ちも普段の会話の中からくみ取っており配慮している。推進会議でも家族からも意見を頂いている。</p>	<p>利用者からは日々の会話の中で、思いを把握している。家族からは面会や家族会・運営推進会議等で意見等を把握している。個別に、面会時に職員から近況報告を行って、家族が要望や相談・苦情が出しやすい雰囲気作りをしている。第三者委員も掲示している。年1回アンケートも実施している。出された意見や要望等は職員で話し合い運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月、管理者を含む全職員出席の定例会を設けており運営、サービス内容なども協議している。また月1回の責任者会議には管理者と法人の責任者で話し合いが持たれている。</p>	<p>法人で毎月、全職員出席の定例会議等で意見や提案を聞く機会を設け、情報交換を行い、出された意見等は法人の責任者と管理者で話し合う責任者会議で対応を検討している。職員の個別相談は、ユニットの責任者が日常的に対応し、反映を図るよう心がけている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人において人事考課制度及びキャリアパス制度がすでに導入されており、職場環境の整備へ積極的に取り組みを行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内での研修にその時代にふさわしい講師を招いて全員で研修を受ける機会が多く設けられている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者が県の認知症の指導者でもあることから、県内の同業者の研修施設として多くの方が訪れており交流が行なえている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談のあった時点で法人内共通の支援パスシートに本人の身体状況や生活暦・相談内容を記入し分析すると共に本人の思いを大切にしたい係わりで不安や寂しさを感じないよう職員との関わりを大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に支援パスシートに家族の思いも記入し分析するとともに家族の不安の解消・望みの実現に努めている。特に入居時は不安も大きいので家族との連携も密に行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に関った居宅ケアマネジャー・ソーシャルワーカーとも協力し本人と家族に必要なサービスを見極めグループホーム入居までの支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮らしの中や、祭事等に関して行事の進め方、菜園作りなどお年寄りから教えられながら行っており、実際植物の成長を楽しまれ育てた野菜を調理に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>日々の暮らしに関わっていただくことはもちろんであるが、家族と地域と楽しむ行事もともに計画を立てて実施している。家族状況に合わせて負担にならない配慮や介護に関する悩みの傾聴も行っている。また、お盆・正月は少しの時間でも良いので自宅への帰宅が出来るよう呼びかけている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>一人ひとりの想いに添い実現できるように支援に努めている。暮らしの中に根ざした商店はもちろんのことであるが、親戚・家族の行事、地域行事やお墓参り・馴染みの美容室の利用なども家族の理解と協力で支援している。また、訪問客も来訪しやすいように周囲にも声掛けなど行っている。</p>	<p>地域行事に参加したり、馴染みの店での買い物など、地域の人とのふれあう機会が多い。親戚や友人・知人の訪問を奨励し、継続的關係が途切れないよう働きかけている。年賀状作成や電話取り次ぎ等を支援し、外出や外食・理美容院利用・墓参などの際にも、家族の協力を得たりして支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>地域の中で育まれた関係やホーム内で築かれた関係などに留意しその変化にも配慮して支援している。日々の暮らしが安定しお互いが支え合う環境になるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>要介護度の変化や入院などで退去されても本人・家族がホームでの暮らしを希望されることが多く、法人内の他施設や居宅ケアマネージャーの協力も得ながら関わっている。またスタッフも施設・病院の訪問、電話などで近況の確認など行い本人・家族が不安にならないように心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただく為に本人・家族からの話しの傾聴はもちろんであるが、本人に関わる各専門スタッフからの情報・法人内共通のフェイスシートや生活歴・ライフスタイルを中心としたアセスメントを活用し把握に努め本人本位に検討している。	家族からの情報を得ながら、日々の生活の中で本人の希望を聞いたり、表情などから思いや意向の把握に努めている。フェイスシートやアセスメントも活用して職員で話し合い、幅広くその人らしい生活ができるように検討している。センター方式の「私の姿と気持ちシート」を利用し職員間で情報の共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただく為に本人・家族からの話しの傾聴はもちろんであるが、本人に関わる各専門スタッフからの情報・法人内共通の支援パスシートや生活歴・ライフスタイルを中心としたアセスメントを行い、その方の人生を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の日常に関する把握は勿論であるがなでしこ入居後はモニタリングを行ないながら一日の過ごし方、心身状態、各専門スタッフからの情報取り入れ把握に努めている。日々の記録も行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフも交えた本人・家族との日々の会話・スタッフ間で毎日行われているミニカンファレンスの中で話し合われた内容、専門スタッフの意見なども反映し定期的なモニタリングとサービス担当者会議で検討し介護計画を作成している。	本人や家族の意向を確認し、主治医の意見も取り入れた上で、担当者会議で検討し、個々に応じた介護計画を作成している。3～6ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年毎または必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録を行っており、毎日のミニカンファレンスにて情報の共有を図っており、次の計画に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なでしこでは多機能性は持ち合わせていないが、できるだけ本人の意向に沿いなでしこでの生活を支えている。法人の母体である特別養護老人ホームでは生涯を支えるサービスを整え柔軟な支援ができている。法人の他事業、他サービスの提供と柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて支援されている。又ホーム全体でもいろいろな地域資源と協働できるように働きかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医との関係を継続出来るように支援している。また緊急時には協力医療機関の受診がえられ不安のないよう支援している。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。眼科・皮膚科などの専門医療機関への受診も必要に応じて支援している。週1回の訪問看護・月2回の協力医療機関の往診及び緊急時の24時間対応の医療連携体制が整っている。適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同法人内の訪問看護ステーションと医療連携を契約したことで日常的に同センターの看護師に相談できる環境にある。また、かかりつけ医療機関の看護職の方にも日常の健康管理や医療について相談し支援をしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院後はできる限り早期に退院できるように支援している。家族とは定期的に連絡を取りご本人、ご家族の退院後の不安がないよう支援している。同法人内のソーシャルワーカー・居宅ケアマネージャーとも連携し退院後のサービス利用について早期に相談援助をすすめている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>緊急時への対応も含めて、家族との話し合い、スタッフ間での話し合いを行っている。必要な方には不安にならないように運営者自ら話し合いに加わり方針を共有している。同法人内のチームで行う定期的な会議にて情報を共有しながら今後の変化に対応するために、検討や準備を行っている。</p>	<p>契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し同意書を貰っている。状況変化時に家族への説明及び意向確認を行っている。法人内の定期的な会議で情報を共有しながら、家族等の意向に沿ってチームで支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルもできており緊急対応されている。またケアワーカーも必要最低限の対応ができるよう、定期的に法人内で行われる応急手当の講義・実技に参加しており、運営者の指示も即適切に、受けられる体制にある。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>いろいろな場面を想定し定期的な防災訓練を行っている。法人全体で地域の人々の協力を得られるように働きかけに努めている。</p>	<p>年2回消防署協力のもと、昼夜想定避難訓練を実施している。自主訓練は地震の避難訓練を年1回実施し、地域住民を含めた大規模訓練も数年に1回実施している。同法人事業所との相互協力関係もできている。自治会との防災協定を結んでいる。スプリンクラーや緊急通報装置も設置し、その他の防災設備もある。災害時の食料・水・米、缶詰・防災用品などの備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念に深く関わっており、もっとも大切にしている部分である。新人スタッフにもまず初めに理解を求める研修を行い、慎重に取り組んでいる。またマニュアル、基準書で随時確認出来るようになっており、勉強会も行っている。	利用者の人格を尊重する言葉かけや対応に留意している。さり気ない居室トイレへの案内や入浴介助時は介護者の目からも隠すようバスタオルを掛ける等、プライバシーの確保に務めている。新人スタッフの研修会や定期的な勉強会を行って、職員の資質向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしの中で同じ目線で話の傾聴を行い理解していただけるように対話している。又自己表示の困難な方にも表情や仕草から受け止め寄り添いながら自己決定を大切に、そして継続できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のペースにあわせてゆっくり待つことを基本にその人らしく暮らせるように支援している。また、本人の希望を遠慮なく言える環境を整え、家族の協力を得ながら本人の思いに添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節にあった日々の身だしなみはもちろんであるが、家族行事や外出時にふさわしいおしゃれも支援している。ホーム内での美容師の利用も行えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選びの買い物から後片付けまで、お一人おひとりの力を活かして一緒に楽しみながら行っている。また嗜好・栄養や郷土料理・季節感を大切に献立し配慮している。	栄養士の助言を得ながら、旬の食材で嗜好に配慮した献立や食事形態を工夫している。個々人の力量に合わせ、買い物や調理・片づけ等、職員と一緒に行っている。季節の行事食や誕生会食・外食・庭でのお茶等、食べる事を楽しむ工夫に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残して把握している。栄養バランスについてもスタッフ勉強会での知識の共有を図り同法人の管理栄養士からの助言などで適切に確保できている。又、ホームで用意する食品以外の親しい方からのお心遣い・贈り物・買い物などの摂取量の把握にも努めその後の様子からバランスをとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	同法人内の専門の歯科衛生士の指導によりおひとりお一人の口腔の状態・本人の力に合わせた支援を毎食後行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の誘導の必要な方は排泄パターンの把握に努め、適時にプライバシーに配慮を行い案内している。夜間も失禁の不快感がないようにおひとりお一人に合わせて適時案内を行っている。昼夜を問わずオムツ・リハビリパンツの使用をしない排泄に取り組んでいる。	排泄パターンの把握や水分チェックを行い、個々に応じトイレへ案内している。夜間も必要時は声かけして案内している。オムツ・リハビリパンツは使用せず、下着に尿取りパットで対応し、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼ることなく適切な食事・運動・水分補給で下剤を使わない便秘予防に取り組んでいる。水分は体重にもよるが、1日に1500CCを目標にその方に応じて朝の冷たい牛乳・お茶寒天も取り入れている。以前、薬を処方されていた方も医師と相談しながら減らしていき自然でスムーズな排泄のリズムを取り戻されている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日、年中いつでも入浴できる体制となっており、時間帯に関しても現在は主に午後からの入浴が多いが24時間、希望があれば入浴できる。体調不良でなければ個浴でゆっくり楽しんでもらう見守り、くつろげる雰囲気大切にしている。	毎日、希望の時間帯に入浴を楽しめるように支援している。個浴をゆっくり楽しんでいる。個浴が困難な人には2人介助で対応している。入浴を嫌がる場合は、時間や職員を変えて声かけする等、清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	おひとりお一人に合わせて対応 されている。休息に関しても閉 じこもり・孤独感に配慮し、見 守りを行い昼夜逆転につながら ないように気持ちの良い睡眠に つなげる努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	医師の指示により正確に服用さ れるように、おひとりお一人の 服薬関連のファイルを作成、毎 日の服薬状況を記入することで スタッフが理解できるようにし ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活 暦や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援 をしている	本人の趣味や生活歴から役割・ 楽しみを共に模索し支援し常に 自信を高めるような言葉かけや 働きかけを行い喜びにつなげて いる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	毎日のお買い物・散歩やドライ ブ・外食・地域行事への参加・ 家族との外出など、選択肢を 広く本人の希望に添い、家族 などの協力も得ながら支援し ている。	日常的に散歩や買い物、地域 行事に出かけたり、隣接の「癒 しの庭」で茶話会を楽しんでい る。毎日の食材の買い物やその 日の天候や気分によってドライ ブや公園等へのピクニック・外 食などに出かけている。家族の 協力を得ながら外食や外出・墓 参・美容院利用などを支援して いる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており金銭の管理が出来ない方も家族の理解を得て、小額のお小遣いを持っていただき買い物時に、ご本人がお財布からお金を出し、好みのものが購入できるよう支援している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	電話の取次ぎや手紙・ファックスの受け取りはもちろんであるが個人で電話が自由にできるように3階に馴染みのピンク電話を設置している。家族会では可能な方には携帯電話の使用も勧めている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	季節・天候や時間に合わせて配慮している。調度や備品は入居者にふさわしい品を配慮し調え物品も入居者の意見を取り入れた電化製品などを準備しており、フロアの装飾も入居者の手作り作品など配置したりと家庭的な雰囲気になっている。又、季節行事の馴染みの装飾・楽しい装飾など入居の方とともに楽しんでいる。	リビングは天井の埋め込みライトや窓からの採光で明るく優しい雰囲気である。換気や温度・湿度に配慮し清潔である。入り口には季節の花が飾っており、民芸調家具や入居者の作品・観葉植物・絵画・置物等で季節感のある飾り付けを行い、面会者との落ち着けるスペースもある。ゆったりと居心地よく過ごせるような工夫がされている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	リビング・廊下のスペースをソファや予備の椅子、観葉植物や季節の草花などで必要に応じた模様替えが行えるようになっており各々に和やかな語らいの場や穏やかにひとりで過ごせる空間も確保できている。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	基本的な家具はホームにて準備しているが、持ち込みは自由である。家族の協力により、大切なもの・思い出の品・使い慣れた道具などの持ち込みもあり安心して過ごされる居室の環境が整っている。入居時にご家族へも馴染みの物を持参するように呼びかけている。	居室はトイレが併設され、ベッド・洗面台・タンス・鏡台・加湿器を備えており、居室毎に異なる壁紙及びカーテンにより個性的な環境となっている。利用者は寝具や時計・写真等使い慣れた物やこだわりの物を持ち込み、自宅と同様に安心して過ごせるように工夫されている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	居室や共有空間の装飾は明るい優しい色彩を使用し、和らいだ気持ちの中で過ごせるように配慮しており毎日の生活の中で混乱の原因を作らないよう心がけている。また、お一人おひとりの身体機能の変化に合わせ、ケアの内容とともにPT・専門スタッフと検討し 安全を保ち自立した生活を送れる環境づくりを行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない